



第468号

2025年2月21日発行
日工同窓会広報委員会
編集責任者

瀧澤 之靖

発行人 細金 敦

日工同窓会事務局
日工同窓会館
〒317-0077
日立市城南町5丁目14番13号
TEL (0294) - 21-5237
FAX (0294) - 21-5241
E-mail:
dosokaij@net1.jway.ne.jp
http://nikkoudousokai.net/印刷所
大成印刷株式会社

「自分で考える」ということ



株式会社プロテリアル茨城工場

総務部 部長 井川 真 吾

私も株式会社プロテリアルは、

2023年1月に日立金属株式会社から社名変更致しました。当社は日立グループから離脱しましたが、日工同窓会の皆さんがものづくりの核を担っていただいている状況に変わりはありませんので、この場を借りて思うところを綴らせていただきます。

私は30年以上前に、日立電線株式会社に入社致しました。もちろん、当時既に日専校を卒業した皆さんが現場のモノづくり、人づくりを支えてくださっていました。当初は恥ずかしながら「ニッセンコウ」と「ニッコウセン」の違いも分かって

いませんでした。

しかし、はじめて日専校を訪問した際に受けた感動は、今も鮮明に記憶しております。

- ・生徒の皆さんから元気よく発せられる挨拶の気持ちよさ、爽やかさ
- ・授業に向き合う真摯な姿勢
- ・充実した技能実習環境と高度な技能を身につけた先生がた

そこには、いずれ自分たちが卒業して、会社の現場を、技能を支えるのだという、確かな自負と自信が満ちているように思われました。

実際に、日専校を卒業してご入社いただいた皆さんは、職場はもちろんのこと、同窓の先輩がたからもご

支援いただけることもあって、理解・成長が早く、すぐに職場のコアメンバーになっておられました。そしてまた、先輩から学んだ技能や心構えを後輩に伝えて、次の世代に承継されていく。これが伝統の力なのだな、と感じたものです。

さて、米国大統領の再選や、少し前の兵庫県知事選の結果等について、真偽が不確かなSNSの情報を信じる方が如何に多いか、が話題になりました。SNSは便利な情報源ですが、同時に誤情報や偏った情報も多く含まれています。多くの人々がSNS上の情報を鵜呑みにして、判断を下すことが増えています。情報の真偽を見極める力がますます重要になっていくのです。

また、立場上、採用面接官や研修講師を担当する機会がありますが、以前よりも「正解」を知りたいがる若者が多いように感じています。不確かな情報が氾濫しているが故に、取捨選択に迷ってかえって決断できない

今号の主な内容

事業所幹部ご所感

1面

技能五輪メダリスト座談会

2面

学校だより

3～4面

本部会員の頁

5～6面

日専校歴史写真

小平浪平シンポジウム

7面

表彰・会員の消息・編集後記

8面

くなり、権威者が「これが正しい」と言ってくれることに頼りたいのかも知れません。

こうした社会状況の中で、日専校の教育はますます重要度を増しています。学校のホームページに、本校の魅力のひとつとして次の記載があります。

「私たちは、自分なりに考え、行動し、振り返ります。」

学校や寮、部活動など生活全般において、生徒たち自らで課題を見つけ、考え、行動し、振り返る【考動アクション】を実行しています。

現代はVUCA（ブーカ）時代といわれており、すなわち

「Volatility：変動性」、

「Uncertainty：不確実性」、

「Complexity：複雑性」

「Ambiguity：曖昧性」

の時代であるということです。大抵の場合、絶対的な正解というものは存在しませんので、望む結果を求めるのであれば、脳から汗をかく思いで考え抜き、これが最善であろうという結論に至って決断する他ありません（しかもスピード感をもって）。検索エンジンや生成AIを使って考えたつもりになるのではなく、自ら考える人材の育成こそ、正に今必要とされている人づくりの根幹であろうと感じます。

会員の皆様におかれましても、先々を見通すことが難しい環境の中、新たな道やより良い未来を拓くべく、自分自身で考えて、様々な取り組みに挑戦していただきたいと思えます。

最後になりましたが、日工同窓会の更なるご発展と、会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、結びのご挨拶とさせていただきます。



同窓会ホームページはスマートフォン等からも上記のQRコードを読み取るだけで簡単にアクセスが可能です！

第47回技能五輪世界大会・第62回全国大会

技能五輪メダリスト座談会

1月25日(土)、日立システムプラザ勝田の第1会議室にて、2024年11月に開催された第62回技能五輪全国大会および国際大会のメダリスト11名を招いて座談会を開催した。開催にあたって、細金副会長より選手の間を称える挨拶から始まり、事前アンケートをもとにQ&A方式でメダリスト達のそれぞれの感想を

聞くことができた。印象的な話として、国際大会にて他の選手が共用の旋盤を操作ミスにより衝突させたこ



とで機械精度を確認する必要があるが、自身の競技時間を割いてまで機械精度を確認してから競技に臨んだ珍しいハプニングが印象的であった。メダルを獲得するまでには、厳しい訓練や苦しい時間を過ごしてきたであろう選手達は、これまでの不平不満をこぼすこともなく真摯に受け答えをしているその姿は、とても遅く感じた。終盤に集合写真を撮影し懇親会を実施、来年も更なる飛躍を誓い散会した。

広報・瀧澤之靖(78卒)

■技能五輪メダリスト座談会を開催するに当たり、事前にアンケートを実施し、心境をお聞きしました。

技能五輪をやろうと思ったきっかけ	・旋盤の才能を感じ、旋盤では負けたくないと思い技能五輪を通して証明したかった。 ・在学中に見学し技能五輪のカッコよさを知ったこと。 ・担任の先生に勧めていただいたことがきっかけであった。 ・在学中の機械実習の旋盤が楽しく、もっと旋盤に詳しくなりたいと思った。 ・兄が技能五輪をやっていたので、その兄を超えるために技能五輪を目指した。 ・中学校の時、技能五輪のビデオを視聴したこと。
技能五輪をやった良かった点	・日本一、世界一に挑戦できるまで技術や人間性を成長させられたこと。 ・専門的な技術や失敗しないための考え方や対策を考える力を得ることができた。
技能五輪をやった大変だった点	・自分の目標が達成できなかったとき。 ・合同訓練会で思うような結果が残せなかったとき。 ・失敗→反省→対策の繰り返しで実力をつけていくが、反省の時間が多いため大変だった。 ・毎日同じことの繰り返しで、楽しいと思えなかったが、そういう中でも最後までやりきることが大変だった。 ・同じ失敗を繰り返さないこと。
結果を出す為に特に心掛けた点・気を付けた点	・目標を細かく設定し、理想に一步步近づけるようにした。 ・指導員とのコミュニケーションを密にし、嘘を付かず些細なことでも全てを伝えたこと。 ・競技中のミスにより悪循環が発生しないよう丁寧で落ち着いた作業を心掛けた。 ・作品だけでなく、工具の扱い方や振る舞いなども日立の代表という意識をもって競技に取り組んだ。
大会でのハプニングや面白いエピソードなど、ご自由に	・午後と午前で機械を共有しているデンマークの選手に干渉事故が起こり、次の日に課題中精度検査を行うことになったこと。 ・溶接機の不具合により、課題提出が5分遅れたが、課題提出時に自分のブースの前に選手が集合し、全員から拍手してもらえたこと。 ・食事を楽しみに、競技に取り組んだ。
今後の進路(指導員や職場復帰等)	・現場に配属となり生産のほうで会社に恩返しをしていくとともに、OBとして後輩の手助けをしていきます。
今後の出場者や挑戦を考えている後進へのアドバイス	・どんな結果でも挑戦することに意味があり、過程がとても大事である。自信を常に持っていれば気持ちが折れることもないと思う。訓練の中で自分をたまには褒めてあげて最後に楽しかったと言えるよう頑張ってください。 ・日々の訓練を大切にして大会に挑むことが重要だと思う。 ・望んだ結果を得られなくとも本気になって努力できることは貴重な経験だと思うので、是非とも挑戦してください。 ・訓練を通して沢山の事を学べる貴重な経験だと思うので、最初に抱いた情熱を忘れずに訓練をしてください。

学校だより

2025年

1月から2月までの資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

●1月24日 実用英語検定一次

●1月26日 技能士シークエンス制御3級学科(2年電気科)

●1月28日 技能士シークエンス制御3級実技(2年電気科)

第55回日専校マラソン大会

例年、マラソン大会に備え、事前に約1週間、平日の朝の授業前に、学校グラウンドで「耐寒ランニング」を実施している。今年度も12月9日から体育委員のリードにより、全校生徒がラジオ体操・日専校体操の後、グラウンド周辺を走った。その他、体育の授業や部活動でも、



耐寒ランニング

この時期はランニングの練習を行っていた。そして、「第55回日専校マラソン大会」を12月19日、晴天の下、ひたち海浜公園にて開催した。生徒たちは元気に園内を駆け抜け、全員が完走した。男子個人の部は1年1組の黒澤柚稀、女子個人の部は2年電気科の日下結衣が優勝となった。また、クラス対抗は2年電気科、部活対抗はバスケットボール部が、それぞれ優勝した。生徒たちにはクラスの枠を超えて応援する姿や健闘を称え合う姿があり、心温まる気持ちで終わることができた。



マラソン大会(国営ひたち海浜公園)

【記録】

●部活動対抗 ①バスケットボール部

②剣道部 ③野球部

●クラス対抗 ①2年電気科

②2年機械科 ③1年1組

●男子個人【10キロ】

①黒澤 柚稀(1年1組) 34分18秒

②後藤 洸平(1年1組) 34分53秒

③坂本 桂一(2年機械科) 36分29秒

●女子個人【5キロ】
①日下 結衣(2年電気科) 23分10秒

事業所別、情報交換会



事業所別情報交換会

気科20名、溶接科8名が受講した。安全教育では「安全の必要性、安全に作業するために、5S3定について、ヒヤリハットの事例」、安全体感では「手袋切創体感、ドライバー巻き込まれ体感、コンセント発火体感、転倒体感、滑り、転がり」、モノづくり体感では「トランプ配り、ピンボード体感、ネジ締め体感」などを受講した。実務現場での安全・モノづくり教育として貴重な機会であり、今後も事業所と連携して教育を進めていきたい。今回は2月6日に同事業所で残り27名が受講する。



安全・モノづくり教室

2年電気科 日下 結衣

安全・モノづくり教育を受講して、日専校で日頃から実践している安全や5Sは、工場でも最も重要視されていること、特に「仕事一片付け」を意識し、工具の所在を常に把握しておくことが、どの現場でも重要であることを学びました。また、モノづくりにおいては、製造時間は速すぎても遅すぎても売上に支障をきたすことを理解し、規定の時間に近づけることが如何に重要であるかを実感しました。

事業所交流セミナー

過去の災害事例の紹介では、事前にリスクを把握し、事故や怪我を未然に防ぐ意識を持つことの大切さを学びました。今回の受講で学び得たことを活かし、今後の実習や学校生活で、先生や先輩、先輩への先手挨拶とオアシスの習慣化(おはようございます、ありがとうございます、失礼します、すみません)を心掛け、分からないことは納得いくまで聞き、メモを取ることを徹底していきたいと思っています。

2年生を対象に、①事業所からの情報提供とニーズ伝達、②事業所実習・配属への意識付けを目的とした事業所交流セミナーを、昨年10月から1月にかけて、日専校多目的教室において3回実施した。



事業所交流セミナー

(3頁の続き)

講師として来校された日立グローバルライフソリューションズ多賀事業所の柴田寛斗さん(102卒)、日立Astemoの小川真徳さん(96卒)からは技能五輪への挑戦について、また、日立ハイテクマニファクチャ&サービスの山田恭平さん(104卒)からは、業務改革などについて、それぞれ講演いただいた。講演後、生徒から出された多くの質問に対して、講師から丁寧なアドバイスをいただき、大変有意義な時間となった。

餅つき大会

つきたての餅を堪能

1月17日、日専校において餅つき大会を実施した。目的は、①チームビルディング②安全考動の実践。コミュニケーションの活性化や、クラスとしての結束力を高めること、組織力を高めることを目標とした。クラスごとに5名の餅つきリーダーを選出し、事前準備を念入りに重ねた。餅の味は定番の餡子、きな粉餅



餅つき大会



つきたての餅を堪能

に加えて、クラス独自に、チョコアーモンド餅、抹茶餅、磯部焼き、お雑煮(うどん入り)とバラエティに富んだ餅つき大会となった。餅つきリーダーたちも、事前準備の重要性や、コミュニケーションの大切さ、クラスの結束力を高めるための動機づけを実践し、チームビルディングの体得につながった。安全面でもRKYを実施し、安全に楽しめる餅つき大会となった。

2年機械科 坂本 桂一

日専校餅つき大会でリーダーを務めたことで、さまざまな学びを得ることができました。特に、事前準備の重要性と、報連相の大切さを実感しました。イベントを成功させるためには、楽しむことよりも、まず裏方として準備を進める必要があります。その努力があつてこそみんなが楽しく過ごせることに気づきました。準備には試行錯誤があり、どれだけ裏で支える人たちが努力しているかが、楽しさを支えていることを深く理解できました。

2年生国内英語研修

何より大事なことは、怪我なくイベントを進めることと、先生方を含めた全校生徒が餅つきを通してコミュニケーションを取り、人間関係を深めたり、笑顔が増えたりすることだと感じました。この経験を通して、楽しいイベントの裏には多くの努力があり、その努力を支えてくれる人々に感謝することの重要性を再認識しました。また、指示の出し方についてはまた改善の余地があると感じており、これからも工夫を重ね、次のイベントに活かしていきたいと思えます。この経験を通して、どんな場面でも協力し合いながら、より良い結果を生むために努力していきたいと強く感じました。



英語研修(ブリティッシュ・ヒルズ)

1月20日と21日、福島県天栄村にあるブリティッシュ・ヒルズにおいて、2年

生の英語研修を実施した。学年単位での訪問は4年目となる。施設については、英国から材料を運搬して建築された数多くの建物や調度品により、日本とは思えないような異国情緒豊かな環境を作り出していた。研修は3つのグループに分かれ、現地スタッフと英語のみ使用した2日間、4つの研修を受講するというタイムスケジュールではあったが、参加が自由な2つのアクティビティにも生徒が挑戦するなど、積極的な行動が印象的であった。修了証書授与では、それぞれのグループにて代表者が、英語による挨拶で講師のスタッフに御礼を伝えることができた。語学力の向上だけではなく、校

2年電気科 菅野 昂流

今回の英語研修を終えて、楽しかったのはもちろん、自分を成長させることができた。特に成長したと思うことは、コミュニケーション能力です。最初は、英語研修なんてやったこともないし、本当に話せるか不安でした。しかし、先生方は積極的に生徒たちに話しかけてくれて、自分も話しかけやすくなり、いざ、先生と話してみるとすごく楽しく、自分なりに英語の単語を並べて相手と楽しい会話をすることができました。更には、問題や質問の際には積極的に手を上げ発表することもできました。これからの生活でも積極的にコミュニケーションをとり、色んな人と関わっていけるようにしていきたいです。

シーケンス制御3級検定



シーケンス制御3級検定

2年電気科制御コースの11名全員が、国家検定「シーケンス制御作業3級」試験に挑戦した。本試験は自動生産設備等の制御に必要な知識を学科試験で問われるだけではなく、実技試験においては当日配布される仕様書に基づき、シーケンスと呼ばれる制御機器と、試験用盤(スイッチ、表示灯、モータ等)を配線した後、シーケンスに制御プログラムを入力し、試験用盤を仕様通りに動作させることが要求されるものである。生徒たちは約3ヶ月と短い時間の中、実習を通じて制御プログラムの基礎を学び、過去問題や模擬問題にも取り組むことで、万全な準備で試験に臨むことができた。試験当日は全員が緊張した面持ちながらも落ち着いて取り組んでおり、培った知識、技能を遺憾なく発揮していた。

日立中部Ⅱ地区

地区総会開催される

日立中部Ⅱ地区総会が、梅香る1月25日(土)に常陸多賀駅近くの「あじ伴」にて実施された。

参加者は43〜61卒までの8人であった。

「あじ伴」は天ぷらと刺身の旨い店である。そして、この店の売りである「肉豆腐」は、豆腐一丁をすぎ焼き風に味付けした鍋料理で絶妙の旨さである。もうこれだけで満腹になる程の食べ応えがある。

会は上野地区長が最近の同窓会の状況について報告。その後、沼館氏(43卒)の発声により生ビールで乾杯、しばし歓談に入る。

座が盛り上がった頃、近況報告をしていただいた。先頭は沼館功氏(43卒)。10歳代から100歳代まで長生き出来ると想定し、節目節目に生きる道標となる目標を定めてきたとのこと。いくつかの含蓄のある目標が紹介された。また、今も早朝ウォーキングと卓球で健康維持に努めている。佐藤茂次氏(53卒)は孫の子守が日々の楽しみとのこと。

字原勝巳氏(48卒)は大沼コミ推で3役をこなし、歴史研究会で地域活動に貢献しているとのこと。初参加の佐藤孝志氏(61卒)はガーデニング等が趣味で、広い庭でい



ろいろな花を栽培して楽しんでいる。佐藤一男氏(50卒)は日立シビックセンター内にある「ヒタチエ」の管理人として活躍されている。

佐藤忠良氏(49卒)は大沼学区の取纏めの長として地域に貢献されている。又、水泳で週1回程度1,000m泳いで健康を維持しているとのこと。

木村隆志氏(55卒)は最近、後期高齢者の運転免許更新があり、大沼自動車学校内で路上の実技をして無事更新したとのこと。又、趣味の卓球に打ち込んでいるとのこと。

最後に地区長から、微力ながら本部会運営委員会の地区活動活性化に努力していることを報告。

会の最後は佐藤孝志氏の音頭で一本締めをし、楽しい地区総会は閉会となった。上野 栄一(54卒)

日立十王地区

第10回懇親会開催

2025年2月1日(土)、12時より地区内の国民宿舎「鶴の岬」において48〜63卒の18人が参加して10回目の地区懇親会を開催した。



十王地区在籍会員は、32人で6割の参加率である。

懇親会開始にあたり金澤和彦地区長(51卒)の挨拶を頂いた後、コロナ禍中に亡くなった5人に対し黙とうを捧げた。

懇親会は、最長老の吉野央之氏(48卒)による乾杯の音頭で始まり、参加者の近況報告を行った。

農業を趣味としている草間秋雄氏(49卒)は、今回、千葉県産の「おまさり落花生」の種を参加者全員に配布した。また、初参加の福原慎

司氏(63卒)は、三菱重工日立工場出身で現在も定年延長で勤務中である。全員



最後は全員で校歌・寮歌を斉唱

る中、全員肩を組んで校歌・寮歌を斉唱し最後に宮崎博文氏(56卒)のエイールでお開きとなった。

石井 浩(58卒)

コラム

「こだわり人生」第6回

小島 喜代一(48卒)

名簿システムの活用

システムを作成しても使わなければ意味がない。

その点、自ら作成するカスタムシステムは、スマートさはないが用途に合わせて作成するから当然活用される。

名簿システムはいろいろな面に活用できる。

例えば「検索」。卒業回数を入力すれば卒業生全てが、卒回と支部名の組み合わせにより支部別の卒回人員が分かる。また、氏名の氏が分かれば名前の読み方が分からなくても卒回や支部名で見当がつく。郵便番号や町名で地域に住む同窓生を知ることでもできる。組み合わせ次第で無限に近い検索が可能だ。

威力を発揮するのが印刷。検索したものを印刷するほか、本部会員配布用の封筒をはじめ、卒回代表への連絡などがある。

印刷するには文字などの大きさと基準点からの縦横位置を指定する必要がある。

その他、役員名簿、総会パンフレットの原稿作成など利用範囲は広い。

同期会活動報告（偶数卒回）

（1月24日（金）に行われた2024年度後期「運営会議」で報告されたものです。）

◆42回卒（齋藤 實則）

今年5、6月に最後の同期会（88才米寿には1年早い）を開催する計画です。

◆44回卒（関根 幸一）

1. 44回卒の84歳は、語呂合わせで「橋寿（はし寿）」と呼ばれお祝いをします。今年の84歳は7回目の「巳年」で縁起が良いと言われています。
2. いつまでも元気でいたい、しかし体調不良の人が増えています。
3. 同期のゴルフ仲間は、4人のみで寂しい限りです。
4. 暖くなった時期に同期会の企画をする予定でいます。

◆46回卒（永盛 栄一）

特に報告する活動はありません。最近46回卒の物故者が多く寂しい限りです。

◆48回卒（宇原 勝巳）

特に報告する活動はありません。

◆50回卒（関 猪一郎）

1. 第56回ゴール会ゴルフコンペを2024年3月22日（金）日立高鈴ゴルフ倶楽部にて8人の参加で行いました。喜寿を迎え、年々高齢になって参加者が減ってきており、現在ゴルフ同好会のメンバーは16人いますが参加者は半分になってきました。（計報）ゴルフ同好会メンバーの山崎宏君が他界されました。
2. 第57回ゴール会ゴルフコンペを2024年7月19日（金）日立高鈴ゴルフ倶楽部にて8人の参加で行い小室正男氏が優勝。
3. 第58回ゴール会ゴルフコンペを2024年11月29日（金）日立高鈴ゴルフ倶楽部にて8人の参加で行いました。優勝は小室正男氏で連覇でした。
4. 2025年度のゴルフ計画は年間3回予定。第59回を3月21日（金）に予定しています。
5. ゴルフ同好会のメンバーに喜寿のお祝いをと話しかけましたが、「酒の席は」と首を縦に振ってくれませんでしたので計画を中止にしました。

◆52回卒（長嶋 忠光）

1. 2025年 秋（10月）頃、日立駅近くのホテルで一泊の喜寿祝を思案中です。

◆54回卒（大森 晴男）

1. ゴルフ大会を4回実施した以外は、特にありません。
 - (1) 4月4日（木）カバヤGC 7人参加
 - (2) 6月24日（月）水戸GC 8人参加

(3) 9月5日（木）ザ・レイクスCC 6人参加

(4) 11月15日（金）茨城ロイヤルCC 7人参加

2. 来年度は、一年おきに開催している同期会の年にあたるのでこれから色々準備していこうと考えています。

◆56回卒（内山 薫）

1. 2023年5月にコロナ管理が5類に移行され従来の生活に戻ったことを機に活動を再開した。
2. 半年の動向観察の後、2024年1月、今後の活動方針を定めるべく、本部会員にアンケートによる意見を募った。会員数20人中15人が活動再開に賛同。
3. 次いで、2024年5月本部会員有志による懇親会を開催。7人が参加した。10月9日（水）56回卒同期会開催を決定。出席者7人が幹事を引き受けた。
4. 10月9日（水）日立市「ホテル天地閣」にて同期会を開催
 - 1) 参加者 23人 6人が急遽欠席（開催案内先77人）
 - 2) 今後の活動方針、「ゴルフ会」の再結成を確認
 - 3) 各自の近況報告
 - 4) 開催内容は会報466号に掲載
5. 今後の活動方針
「ゴルフ会」と懇親会を適切に重ね継続的な懇親活動を展開していく。

◆58回卒（戸村 紀一）

1. 2024年9月27日（金）、国民宿舎「鵜の岬」にて古希祝いとして1泊での同期会を開催した。
 - (1) 詳細は、会報第466号に掲載の記事を参照。また、11月9日（土）付茨城新聞「同窓の友」にも掲載。
 - (2) 参加者は24人（内7人は日帰り）であった。
 - (3) 当日昼間は、ザ・オーシャンゴルフクラブにてゴルフコンペも開催、11人が参加した。
2. 2024年度のゴルフコンペ実績
 - (1) 第25回 6月14日（金）日立高鈴GC
優勝：生田目 忠之君
 - (2) 第26回 9月27日（金）ザ・オーシャンGC
優勝：清原 定男君
 - (3) 第27回 11月22日（金）ザ・オーシャンGC
優勝：美山 勝則君
 - (4) 第28回 2025年2月21日（金）ザ・オーシャンGC
で予定

◆64回卒（槍崎 博幸）

64回卒としての活動は休止中となります。

第66回運営会議

（2024年度後期）議事録

開催日 2025年1月24日（金）

出席者 役員、事務局、地区長、

卒回代表

議題

一、事務局報告

① 2025年度卒回代表、地区長変更がありましたら2月10日までに事務局へ連絡願います。

② 9月に「今後の同窓会の在り方検討委員会」を立ち上げた。今後の同窓会活動は、学校との連携強化による後進の育成に方針転換が必要。

③ 学校との連携強化のために事務局を日専寮に移転する検討をしたい。

二、2024年度活動報告及び

2025年度活動計画

・各小委員会より報告

三、各卒回近況報告

今回は偶数卒回代表者より報告（上記参照）

四、審議事項

学校との連携強化、事務局の日専寮移転について出席者より意見を伺った。その結果、

①事務局移転はおおむね賛成であったが、光熱費・借地料等について明確にすること。

②学校のみならず、会社の了承を得ておくべき。

との意見があった。

日専校歴史写真【18】 「学帽と帽章」1953（昭和28）年



1918（大正7）年の徒弟身体検査
徒弟養成所時代から学帽をかぶっていた



1953（昭和28）年、
学帽制定の頃の実習
学帽をかぶって行っている

【学帽の制定】

1953（昭和28）年頃

1953（昭和28）年に学帽が制定され、全生徒に支給された。徒弟養成所時代から時代にあった帽子が支給されていたが、正式に学帽として制定されたのは、これが初めてである。実習中でも着用した。

【帽章の移りかわり】

日専校の帽章は、多くの変遷が記録されている。

①昭和初期から13年までは日立マークで、帽子の周囲には学年を示す赤線がつけられていた。

②昭和13年以降この赤線はなくなり、帽章も日立マークに桜の座金のついたものとなった。これは、終戦の昭和20年8月まで使用された。終戦とともに、技術員養成所「技養」が廃校になり、帽章も不要になった。日専校の生徒たちにとっては「技養」はあこがれの的であり、ぜひこの帽章を伝承したいという希望が多かった。

③このため、昭和21年以降は、桜の中心に日立マークをおいた「技養」の帽章が使用された。狭き門をくぐって入学した生徒たちは、誇りをもってこの帽章を愛用した。しかし、やがて、この帽章は、桜の花が大きいことなどの理由で敬遠されることになり、昭和30年代に入って、新しい帽章を制定することになった。

④基本形は変わっていないが、全体的に小型になり、地金も厚くなって、重量感が増した。

※本連載では日工同窓会報（記念会報含む）から引用する場合があります

同窓会ホームページ歴史写真館

ユーザー名

パスワード oban100

①戦前 1938年頃
（昭和13年）まで



②戦前 1938～1945年
（昭和13～20年）



③戦後 1946～1955年頃
（昭和21～30年頃）



④1955年頃～
（昭和30年頃～）



生誕150年記念

小平浪平シンポジウム開催される！

1月15日（水）栃木市・小平浪平翁記念会共催で栃木市大平文化会館で小平浪平シンポジウムが開催された。同窓会から今泉会長と事務局石井が参加した。

第1部は、栃木市立合戦場小学校6年生による研究発表があった。要旨は、「小平浪平翁の性格に学ぼう」・感謝（ありがとうの気持ちで周囲の人と接した）

・気配り（相手を思いやって物事がうまくいくようにした）

・謙虚（自分を偉いと思わず周囲の



声を素直に受け入れた）みんなも自分の生き方にこの3Kをいれてみようという内容であった。

第2部は「小平浪平翁が遺したものの生誕の地・創業の地の更なる発展に」をテーマに栃木市大川秀子市長、小平浪平翁記念会大川吉弘会長、日立市梶山副市長（株）日立製作所人財統括本部徳重部長、栃木市文



市共創プロジェクトで「グリーン産業都市」「デジタル健康・医療・介護」

「公共交通のスマート化」の3つのテーマで取り組んでいるとの説明があった。

日立徳重部長からは、顧客共創プラットフォームWorkLumada事業を主軸に社会イノベーション事業を拡大させ、データとテクノロジーでサステナブル社会を実現して人々に幸せを支えることをめざしている旨の説明があった。 石井 浩（58卒）

会員の消息

◎結婚

おめでとう

ございます



大野 拓海氏(105卒・佐和)
萌佳さんと
24.12.25

◎定年退職

ご苦労さ
ました



栗原 達弥氏(68卒・日立)	24.12.31
佐野 清司氏(68卒・日立)	24.12.31
春日 克己氏(68卒・佐和)	24.12.31
吉田 隆二氏(68卒・佐和)	24.12.31
小林 則昭氏(68卒・日高)	24.12.31
佐藤 貞男氏(68卒・国分)	25.1.31
佐藤 勉氏(68卒・中条)	25.1.31

◎退職

大場 博之氏(69卒・水戸)	24.9.30
吉岡 哲也氏(72卒・旭)	24.12.31
中町 義之氏(76卒・旭)	24.12.31
小堀 晋治氏(78卒・旭)	24.12.31
平出 岳人氏(100卒・土浦北)	24.12.31
木村 一成氏(101卒・那珂)	24.12.31
高橋 遼氏(104卒・土浦)	25.1.31

◎職場変更

佐藤 弘二氏(71卒)	24.11.1
日立パワー支部↓佐和支部へ	
及川 明彦氏(75卒)	25.1.6
山崎支部↓桜川事業所へ	
後藤 直樹氏(107卒)	25.1.6
豊浦支部↓日高支部へ	

◎会員逝去

謹んでご冥福を
お祈りいたします

滑川 文男氏(48卒)	24.3.9
坂本 隆夫氏(53卒)	24.4.4
伊藤徳三郎氏(41卒)	24.8.29
木村 勝徳氏(47卒)	24.10.29
檜山 多立氏(31卒)	24.11.8
山田 賢男氏(48卒)	24.12.24
本田 正次氏(34卒)	25.1.1

◎ご家族逝去

お悔やみ申し上げます

三澤 潤氏82卒・日立(ご尊父)24.12.13

お詫び訂正

前467号6頁の技能五輪全国大会入賞者紹介の中で1名掲載が漏れました。深くお詫び訂正させていただきます。

第62回技能五輪全国大会「敢闘賞」

〔構造物鉄工〕



谷田部 寿崇氏
(109卒・日立)

尚、入賞者数につきましては、敢闘賞8名で変更ありません。

◇年賀状紹介

年始にあたり、本部会員の方から年賀状を頂戴いたしました。

・小島喜代一氏(48卒)
・萩野谷泰伸氏(50卒)
・鈴木 章氏(51卒)

◇お知らせ

2025年度同期会日程

・在会10年(101卒)	25.6.14
・在会20年(91卒)	25.6.21
・在会25年(86卒)	25.6.28
・在会35年(76卒)	25.11.8
・在会40年(71卒)	25.11.15
・在会15年(96卒)	26.5.16
・在会30年(81卒)	26.5.16

2024年度本部総会について

- 期日：2025年3月22日(土)
- 場所：シビックセンタ会議室・マープルホール
- 内容：第1部 式典 15:00~15:50
第2部 懇親会 16:00~17:30
- ・正会員は、代議員制となります。
- ・本部会員出席者は、卒回代表または、事務局までご連絡下さい。



▼1月25日に開催された技能五輪メダリスト座談会に出席した。第一部と第二部を通じて、11名の選手の素直な考えや思いを聞くことができた。▼技能五輪に挑戦しようと思ったきっかけは人それぞれであった。メダリストだけあって、やると決めたことを最後までやり抜くという強い信念を感じた。▼日頃の訓練は決して楽ではない。目標を達成するために、やりたいことを我慢しなければならぬときもある。▼選手の多くが「日本一や世界一に挑戦できるチャンス」を逃してほしくない」というメッセージを後輩に残してくれた。次回大会も楽しみである。(細)

9月末日より一身上の都合によりプロテリアルを退職することとなりました。約17年、プロテリアルに勤め同窓会の諸先輩の皆様と後輩の皆様には大変お世話になりました。先ずは、ありがとうございました。次の職場は日立ハイテクとなります。

幸いにも転職先でも同窓会活動が盛んで同窓会の絆や繋がりを感ずることができ、こちらでも大変お世話になります。皆様のご指導、皆様との繋がりがあっての今の私があると思います。これからも同窓会の発展に微力ながら寄与していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。(斉)